

進路支援課

就職活動や教員採用試験など、文学部生の卒業後の進路決定を支援しています。自分の進路について考えるワークショップや、進路が決まった先輩とのフリートークなどを行う「進路ガイダンス」を開催しています。
(文・西岡 佳希さん)

各課学生委員に聞いてみた！

編集課

市大文学部を学生目線で紹介するこの冊子「文学部案内」の編集企画や、支援機構の活動報告やその年度に提出された卒論・修論・博論などを掲載する機関紙「フォーラム人文学」の製作を行っています。
(文・川口 瑛美莉さん)

研究支援課

学部生・大学院生の主体的な学びや先生の研究活動を支援しています。学生主体の勉強会、学生と先生共同の研究活動、先生の研究誌出版などの事業への助成のほか、「卒論セミナー」の開催、優秀卒論・修論の審査や表彰を行っています。
(文・後藤 真実さん)

教育支援課

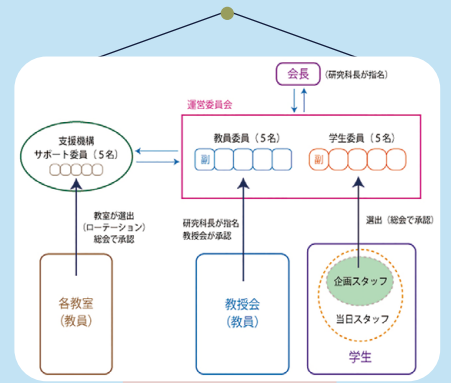
教育支援課では、主に1回生の履修登録やコース選択の一助となるような企画を行っています。これらの活動を通して、文学部・文学研究科の教育環境をさらに向上することを目指しています。
(文・姉川 光さん)

広報課

市大を目指す受験生や、文学部に興味を持っている人を対象に「オープンキャンパス学生企画」や市大文学部の先生方による授業を体験することのできる「春の市大授業」の開催をサポートしています。
(文・深尾 真帆さん)

支援機構ってなんだ？

「大阪市立大学文学部・文学研究科教育促進支援機構※」（通称「支援機構」）は、文学部50周年記念事業の一環として2003年2月に発足した組織であり、会員は文学部・文学研究科に属する全ての学生・教員です。支援機構では、学生の更なる成長と創発的な学びの実現に向けて、学生みずからが意欲的に企画の立案・運営を行っています。そして、教員とも協働しながら授業の枠を超えた多様な学びを促進するという、非常にユニークな団体なのです。



支援機構組織図

※2022年度より「大阪公立大学（仮称）文学部・文学研究科教育促進支援機構」に改称予定です。



学びの鍵を握るのは君たち！

支援機構の企画に参加したきっかけは？

私が入学した4月に、支援機構の開催する「新入生歓迎キャンプ」という企画に参加したことが大きなきっかけです。この企画を通して、支援機構が文学部生の生活をサポートする団体であることを知り、自分もそうした活動に参加したいと考えました。



支援機構の企画に参加したきっかけは？

私が初めて企画スタッフとして参加した支援機構企画は、2020年度のオープンキャンパスです。支援機構が様々な企画をしていることは大学に入って募集を見て初めて知りましたが、「企画をする」ということには昔から興味があったため、友達を誘って参加しました。



支援機構企画に参加することの魅力は？

支援機構の魅力は、他人の学びのサポートを通じて、自身の学びを振り返ることができる、という点だと思います。大学生活の根幹である学びについて考える、とても良い活動だと感じます。

企画中大変だったこと、難しかったことは？

一番大変だと感じたことは、リーダーとして企画のスケジュールを調整する、という点でした。これには先を見通す力が必要とされ、かなり苦労しましたが、貴重な経験となりました。

企画を通して得られたことは？

まず単純に、パソコン作業がほとんどのため、パソコンやアプリに慣れることができました。加えて、参加するまでは具体的には分からなかった、自分たちで一から企画を組み立てていく難しさを痛感しました。

企画の中で楽しかったことや難しかったことは？

オンラインでの開催だったため、反応が見えにくい状態で分かりやすく説明するというのがとても難しかったです。ですが、授業もオンラインのためなかなか同級生や先輩とも繋がれない中、新しい繋がりを作ることができ、楽しかったです。

